

沖縄県における観光と平和教育

—修学旅行に注目して—

富田 いずみ

キーワード：観光，平和教育，修学旅行，沖縄県

1. はじめに

沖縄県はたくさんの観光客が訪れるリゾート地であり，修学旅行の地として選ばれることも多い。また沖縄県は，アジア・太平洋戦争において地上戦が行われた土地であることは誰もが知っていることであろう。本研究では，沖縄県での修学旅行の中で平和教育を実施することの意義を検討する。

まず沖縄県の地誌や観光の実態を調べ，沖縄県が観光地として，壮大な自然や独特の文化を味わうことのできる土地であるということを明らかにする。次に沖縄県の戦跡分布や修学旅行の実態を調べることで，沖縄県は命の大切さに気付き，平和を尊ぶ気持ちを養うことのできる土地であることを明らかにした上で，沖縄県での平和教育を中心とした修学旅行のプランを提案する。

2. 沖縄県の地誌

沖縄県は，日本列島の南西端に位置し，沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島など大小約 160 の島からなる。沖縄県は 11 市 11 町 19 村からなり，県庁所在地は那覇市(北緯 26° 12' 45" 東経 127° 40' 52")である。総人口は 2014 年 10 月 1 日現在で，1,422,534 人であり，男性が 698,275 人，女性が 724,259 人で，総世帯数は 557,950 世帯である。

沖縄県の年間平均気温は 23.1℃で，1 年を通して温暖である。最も温暖な月である 7 月の平均気温は 28.9℃，最も寒冷な月である 1 月の平均気温は 17.0℃と，年較差は 11.9℃である(図 1)。また，沖縄県はたびたび台風の被害を受ける。そのことにより降水量も多く，1981 年から 2010 年までの 30 年間における年間平均降水量は 2040.8mm である。また，気象庁のデータによると，沖縄県の梅雨は，5 月 9 日ごろから 6 月 23 日ごろで，5 月と 6 月も降水量が多い。

沖縄本島へのアクセスには空路と海路の 2 ルートがある。沖縄本島の玄関是那覇で，飛行機も船もほとんど那覇に到着する。県外から沖縄県への海路は，東京，大阪，神戸，鹿児島からフェリーが出ている。海外からのアクセスについては，ほとんどの場合が空路となる。

沖縄県の陸上交通は，自動車に依存しており，那覇市を中心とする都市部においては，交通渋滞，都市機能の低下，生活環境の悪化が大きな問題となっている。このようなことから，交通渋滞を緩和し健全な都市機能の維持・発展を図るため，2003 年 8 月に，那覇空港を始点として，首里汀良町までの 12.9 km を 27 分で走る都市モノレール(ゆいレール)が導入された。しかし，現在でも沖縄県における自動車保有車両数は増加しており，沖縄県民は自動車に大きく依存している。

沖縄県内の主要道路としては名護市の許田 IC から那覇市的那覇 IC を結ぶ 57.3 km の高速道路である沖縄自動車道が通っている。また、沖縄本島北部の国頭村字奥から南部の那覇市明治橋を結ぶ 125 km の国道 58 号線が通っている。

沖縄県は、本土とは違った独特な文化をもっている。そこには沖縄県の歴史的流れが大きく影響しているといえる。琉球王国は、古くから中国や東南アジアとの交流が盛んにあり、食生活や文化などもそれらの国々から大きな影響を受けている。沖縄県の住居は、沖縄の気候に合ったつくりをしていたり、琉球時代の文化が残ったつくりをしていたりと、本土とは違った独特なつくりをしている。

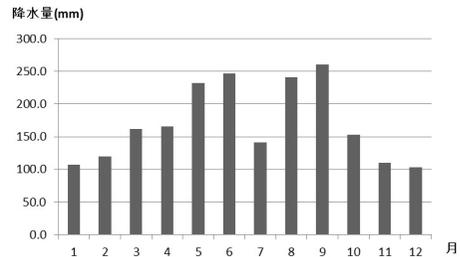
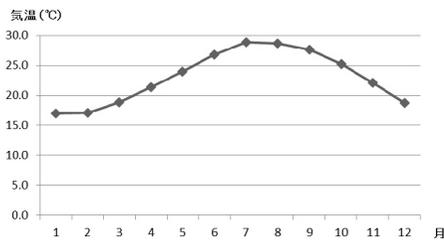


図1 沖縄県(那覇市)における平均気温

図2 沖縄県(那覇市)における平均降水量

出所)気象庁 HP (<http://www.jma.go.jp/jma/index.html> 2014年4月16日アクセス)より作成

3. 沖縄県における戦跡と米軍基地

沖縄戦とは、アジア・太平洋戦争末期の 1945 年、沖縄諸島に上陸した米軍を主体とする連合軍と日本軍との間で行われた戦いである。1945 年 3 月 26 日に米軍が慶良間諸島に上陸してから、牛島司令官、長参謀長らが自決した 1945 年 6 月 23 日まで、組織的な戦闘は続いた。沖縄戦における死者は日本人が約 19 万人、うち約 9 万 4,000 人が一般市民であった。現在、沖縄県は 6 月 23 日を「慰霊の日」と定め、沖縄戦で犠牲になった人々を悼み、平和への誓いを新たにする日としている。

米軍は沖縄県上陸を果たしてから南へと攻撃を進めていったため、沖縄県南部には多くの戦跡が今でも現存している(図 3)。戦跡とは、戦いが行われた跡のことを指す。ここでは沖縄戦において残された防空壕や基地、また、沖縄戦のような悲惨な戦争を繰り返さないために、戦後つくられた資料館などを指す。沖縄県南部には、沖縄平和祈念公園、ひめゆり平和祈念資料館、首里城、糸数壕などがある。

沖縄県の面積は日本の約 0.6% であるのにも関わらず、日本全国に存在する米軍基地の約 75% が沖縄県に集中している。沖縄に存在する米軍施設・区域の面積規模は、沖縄本島において約 19% を占めている(図 4)。その返還跡地は沖縄の振興を図る上で重要な位置に所在し、県民の良好な生活環境の確保、都市の形成、体系的な道路網の整備等、社会経済の面で大きな影響を及ぼし、県土利用上の制約となっている。

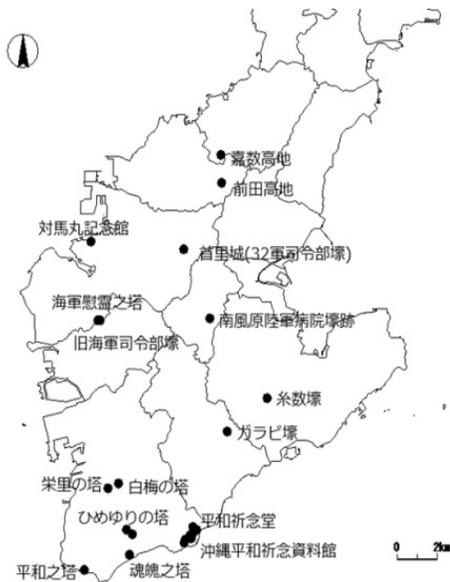


図3 沖縄県の南部戦跡

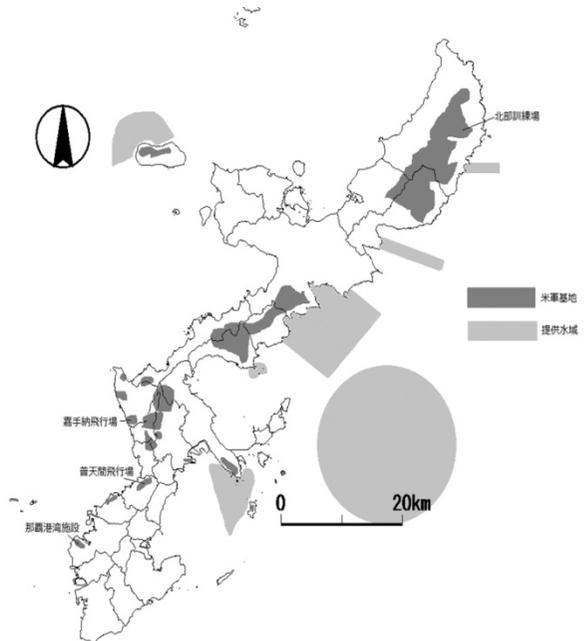


図4 米軍基地の分布

出所)沖縄県 HP(<http://www.pref.okinawa.jp/index.html> 2015年1月3日アクセス)より作成

4. 学校教育における平和教育と修学旅行

(1) 平和教育

本研究において取り上げる平和教育とは、池野(2009)が提唱する直接的平和教育である。直接的平和教育とは、直接的暴力である戦争やそれに関わる問題、近年では構造的暴力と称される貧困、抑圧、差別などに関わる問題をとりあげ、その問題解決に関連する行動を促す教育のことである。さらに言えば、学校教育の現場において実践されている平和教育のことを指す。

広島県や長崎県では、原爆による被爆を経験した県として被爆体験や戦争体験を聞いたり、戦争について学んだりして平和教育が実施されている。沖縄県では地上戦を経験した県として、沖縄戦体験者の講話や総合的な学習の時間を利用して平和祈念館を訪れたり、平和集会が行われたりもしている。兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験から、防災教育を積極的に行っている。異なるアプローチの方法で命の教育が行われている。

子どもたちに命の大切さや平和の尊さを気付かせる教育として平和教育は重要であり、平和教育に積極的な県もある。しかし、現在の平和教育には問題点も存在する。戦争体験者が年々減る中で、小中高とも「ゆとり教育」の転換に伴う2008年の学習指導要領の改定により「総合的な学習の時間」が縮小し、教科教育の時間数が増え、教員の多忙化も深刻である。また、教科書の無い平和教育を行うことは教員にとって負担になっているということも大きな課題である。

(2) 修学旅行

修学旅行は、中学校学習指導要領第5章特別活動の学校行事2内容(4)の「旅行・集団宿泊行事—平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような

活動を行うこと。一」に位置づけられる。

学校側は、文部科学省の定める学習指導要領や通達、各校が定める教育目標に沿って、修学旅行の目的を決定し、事前学習・事後学習を実施している。また、小中高すべての学校の修学旅行は、各市区町村の教育委員会が定めた実施基準というものに則って実施されている。実施基準では、旅行期間や旅費、実施学年などが決められており、その範囲内で旅行先も選択される。

修学旅行の実態について、公益財団法人全国修学旅行研究協会が実施した『平成 26 年度近畿地区公立中学校修学旅行実施状況報告書』を分析する。この報告書は、近畿地方の 2 府 4 県の公立中学校における修学旅行実施状況について調べたものである。

実施方面として兵庫県で特に人気が高いのは、「関東・富士・伊豆」と「沖縄」である(図 5)。兵庫県の公立中学校の旅行費用についてみると、平均は 57,824 円であり、最高額は 78,859 円、最低額は 38,853 円である。

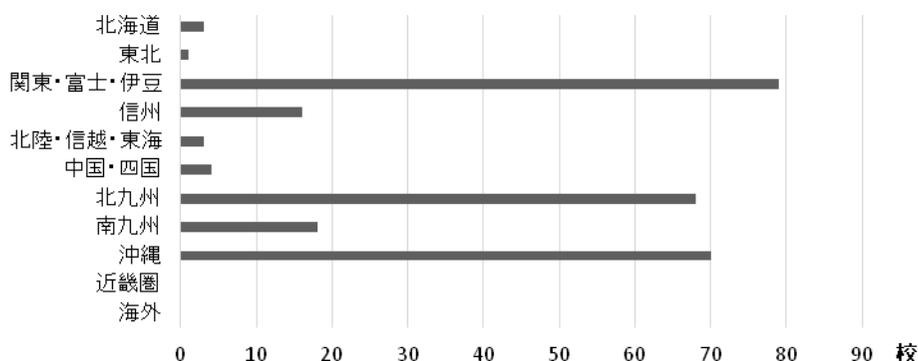


図 5 兵庫県の修学旅行先
出所)『平成 26 年度近畿地区公立中学校修学旅行実施状況報告書』より作成

5. 沖縄県の観光と修学旅行

(1) 沖縄県の観光

沖縄県への観光客数は年々、増加傾向にある。1997 年の観光客数は 380 万人であったのが、2013 年には 658 万人と、これは過去最高である。要因としては、2012 年 7 月以降の段階的な LCC の参入や、2013 年 3 月の新石垣空港の開港などが考えられる。2012 年度の観光収入は 4,478 億円であり、沖縄県総生産の約 10%を観光収入が占めている。沖縄県経済の自立的な成長にとって観光産業の重要性は高い。

沖縄県は国内線を利用して出域する観光客を対象として『観光統計調査』を実施している。それによると、旅行中の活動(複数回答可)では、「観光地めぐり」が最も高く 59.7%、「沖縄料理を楽しむ」「ショッピング」「保養・休養」「海水浴・マリレジャー」などが続く。「戦跡地参拝」は 10.1%である(図 6)。沖縄県への旅行客は、観光地巡りや沖縄県独特の食事を楽しんだり、海水浴やマリレジャーをしたりと、娯楽を目的とする人が多い。

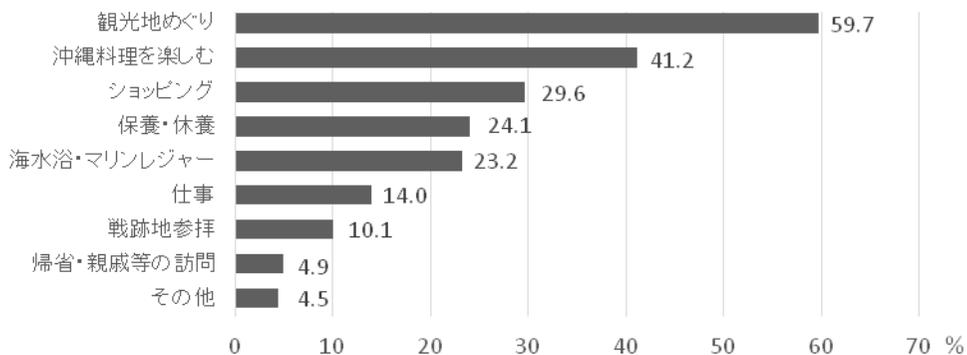


図6 旅行中に行った活動
出所『平成25年度観光統計調査』より作成

(2) 沖縄県への修学旅行の実態

沖縄県への修学旅行を実施しているのは、高校が最も多い。これは、小・中学校と比べて、修学旅行の費用が高く設定されている都道府県がほとんどであるからだと考えられる。小・中学校では予算の都合上利用できない航空機も、高校の予算では利用することができるが理由として考えられる。沖縄県観光政策課が実施した『平成25年度修学旅行入込状況調査結果』より、2013年度の修学旅行入込校数は、全校種(小学校・中学校・高校・専門学校・大学・その他)を含めて、2,496校であった。

近年では、伊江島での民泊が注目されている。民泊とは、ホテルや旅館に泊まることではなく、一般の民家に宿泊する、民家体験泊のことである。伊江島は、沖縄本島北部の本部半島の北西約9kmの位置にある。面積は22.77km²で、世帯数は2,219戸、人口は4,822人である(2012年3月31日現在)。本部港から伊江港までの所要時間はフェリーで約30分である。島の北西部には島全体の35%を占める在日米軍の伊江島補助飛行場がある。

伊江村は教育環境としては高校が無く、高校へ進学する者は親元を離れて本島内で生活することになる。そのため、中学校卒業まで使っていた部屋が空き部屋となるので、その部屋の利用方法が協議された。そして長年懸案となっていた滞在型観光への利用、日帰りの修学旅行から宿泊体験への活用が提案されたのである。2003年から始まった民泊事業は年々修学旅行者数が増加している。

沖縄県への修学旅行を実施した東京都桜華女学院高校(山野,1995)と兵庫県加古川市の中学校(4校)を事例として取り上げ検討すると、これら全ての学校で、南部の戦跡を通じた平和学習が行われていた。資料館や記念館で沖縄戦について学ぶだけでなく、沖縄戦体験者の講話や、壕に実際に入るなどの体験を行っている学校が多い。そして南部での平和学習の中で、生徒たちによる平和集会がもたれている。また、伊江島での民泊を実施している学校や、沖縄県独特の文化や自然を生かした体験学習を取り入れている学校もある。

6. 沖縄県を行き先とした修学旅行の提案

年間600万人以上の人々が毎年沖縄県へ旅行をしている。しかし、その中で沖縄戦の戦跡を訪れる人はわずかである。また、新学習指導要領では総合的な学習の時間の授業数が大幅に削減され、平和教育に十分な時間を割くことが難しくなっている。そのような現状であるからこそ、沖縄県への修学旅行の中で平和教育を中心とした修学旅行を実施することで子どもたちに平和の尊さを再認識させること、沖縄県の独特の文化や自然に触れ子ども

たちが暮らす地域との違いやその良さを感じることをねらいとする提案を行う。

実施時期は5月に、2泊3日の日数で行う。全体の日程は表1に示した通りである。予算は58,290円とする(表2)。対象生徒は兵庫県の中学校の生徒として提案する。

1日目は平和教育を中心とした行程とする。平和教育を通して、沖縄戦の悲惨さを学び、平和を愛し、命を大切に作る気持ちを養うことをねらいとする。沖縄戦について学ぶ上で、体験的に学ぶことが重要だと考える。そこで、沖縄戦当時、陸軍病院の分室や住民の生活の場として利用されていた糸数壕の中に入り、暗闇の中での生活を体験する。暗闇で全く見えない壕の中での生活は、どれほど過酷であったかを気付かせる。次に、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館を訪れる。沖縄戦では大人だけではなく子どもたちも巻き込まれた戦争であったことを認識させる。最後に平和祈念堂を訪れ、平和集会を開く。沖縄戦体験者の講話を聞き、リアルな沖縄戦を体感する。そして、さらに平和に対する思いを強くしたい。平和集会の最後には、『HEIWAの鐘』を合唱する。『HEIWAの鐘』は、シンガーソングライターの仲里幸広が作詞、作曲した楽曲で、2000年7月に、九州・沖縄サミットで紹介された。戦争を憎み、平和への思いが書かれた楽曲である。合唱をする中で、沖縄県南部での平和教育を振り返りながら改めて、平和を愛する気持ちを養う。

2日目は、沖縄県の自然や文化を体験すること、地元の人たちと交流を深めることをねらいとする。まず国頭郡本部町備瀬にあるフクギ並木や美ら海水族館を訪れ、沖縄県の自然に触れる。次に、伊江島での民泊体験を実施し、沖縄県の地元の人々との交流により、子どもたちのコミュニケーション力の育成を図る。また伊江島の3分の1の面積に米軍基地が今もなお残っている。そのような中、伊江島での生活を体験することで、改めて平和とは何かを生徒たちに問いかける。

3日目は、沖縄県の歴史を学ぶことをねらいとし、首里城を見学する。首里城は、1429年から1879年までの450年間存在した琉球王国の政治、外交、文化の中心であった。中国との交流もあり、中国の建築様式を取り入れられており、世界遺産に登録されている。また、首里城は沖縄戦で全てが消失しており1992年に復元されているという事実を知ること、沖縄県の歴史について学び、さらにまた平和教育を実施することができる。

上記の内容での修学旅行を提案する。1日目は平和教育、2日目は沖縄県の自然や文化に触れ、地元の人たちとの交流を深める、3日目は沖縄県の歴史を学ぶというように1日単位でねらいを設定しているが、一貫して平和教育を軸とした内容にしている。

表1 修学旅行の日程

1日目	
8:00	学校発
10:00	伊丹空港発
12:00	那覇空港着
14:00～15:00	糸数壕
15:30～16:00	ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館
16:30～17:00	平和祈念堂(平和集会)
18:00	ホテル着(那覇市内)
2日目	
8:30	ホテル発
10:30～11:30	フクギ並木散策
11:45～13:00	美ら海水族館
13:00～14:30	ビーチタイム
15:00	本部港発
15:30	伊江港着・入村式
16:00～	家業体験
3日目	
8:00～	家業体験
12:20	離村式
13:00	伊江港発
13:30	本部港着
15:00～16:00	首里城
18:00	那覇空港発
20:00	伊丹空港着
22:00	学校着

表2 修学旅行の予算

内容	(円)
交通費(航空機+沖縄県での移動)	40000
糸数壕	200
ひめゆり平和祈念資料館	100
平和祈念堂	250
ホテル(1日目の夕食付き)	6000
美ら海水族館	490
伊江島民泊	10000
首里城	250
昼食(2食分)	1000
合計	58290

出所)筆者作成

7. おわりに

沖縄県はアジア・太平洋戦争で地上戦の舞台となり、今でも当時の戦跡が多く残されている。特に沖縄県南部は戦闘が最も激しく行われた場所で、戦跡や沖縄平和祈念公園など、沖縄戦の実態を学ぶことのできる施設が集まっている。

日本の学校において平和教育が充実している県もあるが、小学校では2011年度、中学校では2012年度に新学習指導要領が全面的に実施され、総合的な学習の時間が大幅に削られたことで、平和教育の時間を十分に確保することができないなどの課題がある。

沖縄県への観光客は年々増加しており、年間600万人を超える観光客が沖縄県を訪れている。沖縄県にとって観光業は県内経済の中でも重要である。観光客は、観光地巡りや沖縄県独特の食事などを楽しんでいる。しかし、沖縄県への旅行で沖縄戦の戦跡を訪れる人は多くないという現状がある。

また、沖縄県は、修学旅行の地として人気を集めている。2013年度には2,496校もの学校が沖縄県への修学旅行を実施している。近年では、沖縄県北部にある伊江島での民泊事業が注目されている。

沖縄県の観光や平和教育について調べたことを踏まえて、平和教育を中心とした沖縄県での修学旅行のプランを提案した。ねらいとして、「平和教育を実施し、平和を愛し命を大切にす気持ちるを養うこと」、「沖縄県の自然と文化を体験し、地元の人たちとの交流を深めること」、「沖縄県の歴史について学ぶこと」の3点を設定した。3日間を通して1日単位でそれぞれのねらいを設定し、平和教育を軸とした内容とした。

今後の課題は、本研究で提案した修学旅行を学校現場で実践することである。

参考文献

池野範男(2009):『学校における平和教育の課題と展望』, 広島大学平和科学研究センター編『平和学を拓く 松尾雅嗣教授退職記念論文集』, 広島大学平和科学研究センター pp.400-412

目黒惇(1999):『先生のための音楽修学旅行シリーズ① 沖縄県』, 音楽之友社 119p.

山野晴雄(1995): 沖縄戦から平和を学ぶ旅, 高文研編『修学旅行読本』高文研 pp.121-127

引用 URL

沖縄県ホームページ <http://www.pref.okinawa.jp/index.html> 2015年1月3日アクセス

加古川市ホームページ <http://www.city.kakogawa.lg.jp/> 2015年1月13日 アクセス

気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/jma/index.html> 2014年4月16日アクセス

修学旅行ドットコム <http://shugakuryoko.com/> 2014年12月31日アクセス

Sightseeing in Okinawa prefecture and peace education ;

Focusing on school trip

TOMITA Izumi

Key Words: sightseeing, peace education, school trip, Okinawa prefecture